

令和5年度 ひやりはっと集計結果 (令和5年3月～令和6年2月)

場所

- ・事業所外 2件 (車両内2件)
- ・事業所内 8件 (△の部屋7件、事務室1件)

当該者の年齢

- ・2歳 1件
- ・4歳 3件
- ・5歳 3件
- ・11歳 2件
- ・職員 1件

状況

- ・転倒 3件
- ・衝突 1件
- ・怪我 2件
- ・破損 1件
- ・施錠忘れ 1件
- ・危険行為 1件
- ・チャイルドシート設置忘れ 1件

原因

- ・指導員の予測・注意不足
- ・物の配置に関する確認不足
- ・インテーク時の身体的特徴に関する聞き取り不足

総論

以前よりも療育中の使用玩具の配置は工夫することができており、それが原因となるひやりはっとは低減されている。一方で、送迎時においては事前の確認により防ぐことが可能であったと考えられるひやりはっかが2件認められた。送迎にかかわる職員が増えたことにより、確認漏れや引継ぎが発生しやすい状況であったと考えられる。今一度事前確認及び報告を徹底することを呼びかけ、ひやりはっこの減少に努める。

また、療育中のひやりはっについては、児童が活動している際の立ち位置が適切でなく、すぐに支えられずに転倒に至る事例や、季節ごとに設置される空調機器使用時の注意点を、児童に十分に周知できていなかったことが機器の破損につながった事例等が確認された。今後は、各職員が自身の力量および各児童の特徴を適切に把握し、療育内容の考案や実施にあたること、加えて、療育室や車内等の環境設備使用時における注意点を職員が把握しているだけでなく、児童らにも十分に説明の上、配置や使用方法について再度確認を行い、ひやりはっこの軽減につなげていけるよう心掛けていく。